

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



WEEKLY

なごや ちくさ

題字 黒野清宇

名古屋千種ロータリークラブ
 承認 1982年 8月24日
 例会日 火曜日 12:30
 例会場 愛知厚生年金会館
 事務局 TEL763-5110 FAX763-5121
 会長 魚津常義
 幹事 二村 聡
 I.T委員長 油 田 弘 佑

No.5

超 我 の 奉 仕

SERVICE Above Self

2005～2006年度 RI会長 カール・ヴィルヘルム・ステンハマー

きょうの例会

第1098回 平成17年8月9日(火)

桜花学園高等学校 I A C活動報告

先週の記録

第1097回 平成17年8月2日(火) 晴

◆“君が代” “我等の生業”

◆出席報告

会 員	60(58)名	出 席	46名
出席率	79.31 %		
前々回	7月19日 (修正出席率)		94.44%

◆ビジター紹介 1名

◆ゲスト紹介

金城学院大学文学部 雨甲斐 朱美様
2000～2001年度財団奨学生 中村 るりさん

二村幹事報告

1. 次回例会終了後、理事役員会を開催致しますので理事役員の方はご予約下さい。
2. ロータリーの友8月号が来ておりますのでお帰りにお持ち下さい。

中村るりさん挨拶



本日は例会に出席させて頂き皆様のお元気なお顔に会えて大変嬉しいです。

財団奨学生としてフランスに留学させて頂きましたお陰で昨年の9月より外務省の広報文化部に勤務させて頂いております。パリの文化部と言えさぞかし毎日楽しいレセプションというイメージがありますが、大変ハードで深夜12時まで働いております。

主な仕事は日本の文化をフランスに発信する事はもちろんですが、最近では日本の安保理事国入りであるとか中国での反日デモ等、第3国のフランスメディアに正しく日本の立場を主張するよう外務省より支持があり、フランス日本大使自らテレビに出演し、積極的な広報を行っており、その報告書を外務省に提出する仕事をしております。

また、大使館の広報誌も担当しており、今年は地元愛知万博PRに直結出来た事は大変光栄で3月にシラク大統領が訪日の際にもPRを致しました。

ここに資料を持って参りましたので御覧下さい。

魚津会長挨拶

皆さん今日は。

このところ大変暑い日が続いておりますが、どうぞお身体にお気をつけ下さい。

本日は東RC水野茂生様ようこそお出で下さいました。金城学院大学文学部雨甲斐教授には後程お話をお願い致します。大変嬉しいことで西野君がお元気にご出席いただきました。又、只今ご挨拶をいただきました財団奨学生中村るりさんのご活躍、今後ますます頑張ってくださいことを願っております。

現代にはロータリーのように毎週例会に出席し、談笑して貴重な一刻を過すという事が少なくなって参りました。

家族に於ても一家団欒も難しく、会社等は仕事以外で集まって談笑する事などは有りません。

そういう意味でロータリーの例会は非常に意義のある事と感じております。

◆講演

“一葉の世界に生まれ育って”

金城学院大学文学部 教授 雨甲斐 朱美様
(紹介 牧野さん)



本日はお招きいただきましてありがとうございます。演目どおり、樋ロー葉の「だけくらべ」の世界になぞらえまして、私の育った旧中村遊郭あたりの暮らしぶりをおはなしさせていただきます。時は昭和三十年代から四十年代のお話でございます。

生まれは旧中村遊郭のはずれ、現在の中村区則武町、ご婦人向けの飾り物や履物を商う「三都屋」のひとり娘でございます。私が生まれた頃には、ご存知のように遊郭の灯はすっかり消えておりましたが、特別な歴史としきたりの町ですから、やはり特異な育ちと言えるかもしれません。まずは生家ですが、いわゆる町屋造りで、京都の町屋の間口を倍ほどにしたものとお考え下さい。写真を持参しました。このような家に十八年間育ちました。子供の頃の思い出といたしますと、まず、毎朝、神棚にお灯明をあげていたこと、祖父がきせるタバコを吹かすかわらで祖母が三味線をかき鳴らしていたこと、二階の窓から手を伸ばして中庭からそびえ立つイチジクの本の実をとっていただいたこと・・・など今も鮮やかに思い出します。まだ江戸時代からのしきたりや生活習慣が色濃く残っていたように感じます。

季節の区切りを感じさせてくれることも多く残っていました。春は緋毛氈を敷いてのひな祭り。祖母手作りの桜寿司がつきものです。梅雨入り前の虫干しと洗い張り。中庭と裏庭が色とりどりの着物で埋め尽くされていました。着物の着付けと手入れの仕方は習わずとも生活の中で自然に覚えました。七夕には町内中の家々の軒先で笹が揺れます。女の子たちは踊りのお師匠さんからいただいたユカタを着ておめかしです。髪は桃割れに花かんざし。たいていは家で母に結ってもらいます。夏の庭にはヘチマが揺れています。ヘチマ水を取って化粧水代わりに湯上りに使います。ヘチマの実を乾燥させてからだを磨くのに使います。秋はお祭り。男の子たちは町内ごとの神輿を守って隣町の連中と大立ち回り。一葉の「たけくらべ」の喧嘩とまったく同じ有様です。そして一年の締めくくりは大掃除。終われば除夜の鐘が鳴る前に、髪結いさんのところへ行きます。結いたての髪が崩れないように苦心しながら一晩明ければ元旦です。家族総出で町内のお風呂屋

へ初湯をいただきにまいります。それからお師匠さんのところへお年賀のご挨拶。本当はお年玉をいただきにまいります。皆で芸がよくなるように初詣に出かけて一年の始まりです。

学区外の中学に入るまで気づかなかった面白いことがたくさんあります。例えば、生家あたりの古い家では、当たり前のように女の子が跡継ぎです。母も私も跡継ぎです。ですから女の子は大切に育てられます。私は中学に入るまで町内の外へ一人で出掛けたことも、自由に使えるお金を持ったこともありませんでした。出かける時は常に誰かと一緒ですし、一人で町内のお店に出かける時は、ほしいものがあればお店に入っていたいてくるのです。皆、私がどこの子か知っていますので安心です。月末に家のものがまとめてお支払いをします。着る物は、季節ごとに出入りの呉服屋と洋品店が家まで注文を取りに来てくれますので、すべてオーダーメイドで、デパートなどに買い物には行きません。高校生になって初めて一人で地下鉄に乗って買い物に出かけた時には、本当に大人になったような気がしたものです。母などは私よりさらに古い育ちですので、亡くなるまで紙のお金しか知らないような人でした。

毎日の躰は厳しいものでした。ご挨拶の仕方、食事のマナー等、一つでもしくじれば、ゲンコツが飛んでくるか、食事抜きで一晩中物置に閉じ込められます。お稽古事の厳しさも尋常ではありません。しきたり通り、数年六歳の六月六日がお稽古始めです。日本舞踊に三味線、お習字、和歌、そろばん・・・おまけにハイカラ好みの祖父の命令で英語にピアノが加わりました。多い日には二、三ヶ所のお稽古場を回ります。途中で逃亡したくても、必ず家のものが付いていますので、それも叶いません。家に帰ってからもおさらいのお稽古が待っています。そんな毎日でした。こうお話しすると、みなさんは、しきたりに縛られた不自由な世界とお考えになるかもしれません。しかし、私たちの世界の常識は一般社会の常識とは違っています。例えば、小学生がお酒を飲んで酔っ払っていても、中学生が街中でタバコをふかしていても、父親のいない子供を産む娘がいても、町の大人たちは大して問題にしません。そのかわり、義理を欠いたり、筋の通らないわがままをしたり、約束事を守らないものには容赦しません。モラルの有り様がちがうのです。良くも悪くも世間の常識に縛られない自由な側面を持っているように思います。後に私が一人でアメリカに飛び出して行った時も、また、シングルマザーで子供を育てることになった時も、その自由さにチカラをもらいました。

お話が長くなりました。このあたりで終わりとさせていただきます。

ありがとうございました。

◆ニコボックスは次回掲載と致します。

次回例会

平成17年 8月22日(月)

ガバナー公式訪問 (3RC合同)

於：ウエスティンナゴヤキャッスル